

函館湾流域下水道事務組合
情報セキュリティ基本方針

目次

1	目的	1
2	定義	1
3	対象とする脅威	2
4	適用範囲	3
5	職員の遵守義務	3
6	情報セキュリティ対策	3
7	情報セキュリティ監査および自己点検の実施	5
8	情報セキュリティ基本方針の見直し	5

函館湾流域下水道事務組合情報セキュリティ基本方針

1 目的

本基本方針は、函館湾流域下水道事務組合(以下「組合」という。)が保有する情報資産の機密性、完全性および可用性を維持するため、組合が実施する情報セキュリティ対策について基本的な事項を定めることを目的とする。

2 定義

(1) ネットワーク

コンピュータ等を相互に接続するための通信網，その構成機器（ハードウェアおよびソフトウェア）をいう。

(2) 情報システム

コンピュータ，ネットワークおよび電磁的記録媒体で構成され，情報処理を行う仕組みをいう。

(3) 情報セキュリティ

情報資産の機密性，完全性および可用性を維持することをいう。

(4) 機密性

情報にアクセスすることを認められた者だけが，情報にアクセスできる状態を確保することをいう。

(5) 完全性

情報が破壊，改ざんまたは消去されていない状態を確保することをいう。

(6) 可用性

情報にアクセスすることを認められた者が，必要なときに中断されることなく，情報にアクセスできる状態を確保することをいう。

(7) マイナンバー利用事務系（個人番号利用事務系）

個人番号利用事務（社会保障，地方税もしくは防災に関する事務）または戸籍事務等に関わる情報システムおよびデータをいう。

(8) L G W A N接続系

L G W A Nに接続された情報システムおよびその情報システムで取り扱うデータをいう（マイナンバー利用事務系を除く。）。

(9) インターネット接続系

インターネットメール，ホームページ管理システム等に関わるインターネットに接続された情報システムおよびその情報システムで取り扱うデータをいう。

(10) 通信経路の分割

L G W A N接続系とインターネット接続系の両環境間の通信環境を分離した上で，安全が確保された通信だけを許可できるようにすることをいう。

(11) 無害化通信

インターネットメール本文のテキスト化や端末への画面転送等により，コンピュータウイルス等の不正プログラムの付着が無い等，安全が確保された通信をいう。

3 対象とする脅威

情報資産に対する脅威として，以下の脅威を想定し，情報セキュリティ対策を実施する。

- (1) 不正アクセス，ウイルス攻撃，サービス不能攻撃等のサイバー攻撃や部外者の侵入等の意図的な要因による情報資産の漏えい・破壊・改ざん・消去，重要情報の詐取，内部不正等
- (2) 情報資産の無断持ち出し，無許可ソフトウェアの使用等の規定違反，設計・開発の不備，プログラム上の欠陥，操作・設定ミス，メンテナンス不備，内部・外部監査機能の不備，委託管理の不備，マネジメントの欠陥，機器故障等の非意図的的要因による情報資産の漏えい・破壊・消去等
- (3) 地震，落雷，火災等の災害によるサービスおよび業務の停止等
- (4) 大規模・広範囲にわたる疾病による要員不足に伴うシステム運用の機能不全等
- (5) 電力供給の途絶，通信の途絶，水道供給の途絶等のインフラの障

害からの波及等

4 適用範囲

(1) 組織の範囲

本基本方針が適用される組合の組織は、管理者、議会、公平委員会および監査委員とする。

(2) 情報資産の範囲

本基本方針が対象とする情報資産は、次のとおりとする。

ア ネットワークおよび情報システムならびにこれらに関する設備
および電磁的記録媒体

イ ネットワークおよび情報システムで取り扱う情報（これらを印刷した文書を含む。）

ウ 情報システムの仕様書およびネットワーク図等のシステム関連文書

5 職員の遵守義務

組合が保有する情報資産を利用する全ての職員（地方公務員法（昭和25年法律第261号）に定める一般職および特別職に属する者とし、以下「職員」という。）は、情報セキュリティの重要性について共通の認識を持ち、業務の遂行にあたって本基本方針を遵守しなければならない。

6 情報セキュリティ対策

上記3の脅威から情報資産を保護するために、以下の情報セキュリティ対策を講じる。

(1) 組織体制

組合の情報資産について、情報セキュリティ対策を推進する組織体制を確立する。

(2) 情報資産の分類と管理

組合の保有する情報資産を機密性、完全性および可用性に応じて

分類し，当該分類に基づき情報セキュリティ対策を実施する。

(3) 情報システム全体の強靱性の向上

情報セキュリティの強化を目的とし，業務の効率性・利便性の観点を踏まえ，情報システム全体に対し，次の三段階の対策を講じる。

ア マイナンバー利用事務系においては，原則として，他の領域との通信をできないようにした上で，端末からの情報持ち出し不可設定や端末への多要素認証の導入等により，住民情報の流出を防ぐ。

イ LGWAN接続系においては，LGWANと接続する業務用システムと，インターネット接続系の情報システムとの通信経路を分割する。なお，両システム間で通信する場合には，無害化通信を実施する。

ウ インターネット接続系においては，不正通信の監視機能の強化等の高度な情報セキュリティ対策を実施する。

(4) 物理的セキュリティ

重要機能室，各種サーバ，通信回線および端末等の管理について，物理的な対策を講じる。

(5) 人的セキュリティ

情報セキュリティに関し，職員等が遵守すべき事項を定めるとともに，十分な教育および啓発を行う等の人的な対策を講じる。

(6) 技術的セキュリティ

コンピュータ等の管理，アクセス制御，不正プログラム対策，不正アクセス対策等の技術的対策を講じる。

(7) 運用

情報システムの監視，本基本方針の遵守状況の確認，業務委託を行う際のセキュリティ確保等，本基本方針の運用面の対策を講じるものとする。また，情報資産に対するセキュリティ侵害が発生した場合等に迅速かつ適正に対応するための措置を講じる。

(8) 業務委託と外部サービス（クラウドサービス）の利用

業務委託を行う場合には，委託事業者を選定し，情報セキュリテ

ィ要件を明記した契約を締結し，委託事業者において必要なセキュリティ対策が確保されていることを確認し，必要に応じて契約に基づき措置を講じる。

外部サービス（クラウドサービス）を利用する場合には，利用に係る規定を整備し対策を講じる。

ソーシャルメディアサービスを利用する場合には，ソーシャルメディアサービスの運用手順を定め，ソーシャルメディアサービスで発信できる情報を規定し，利用するソーシャルメディアサービスごとの責任者を定める。

7 情報セキュリティ監査および自己点検の実施

本基本方針の遵守状況を検証するため，必要に応じて情報セキュリティ監査および自己点検を実施する。

8 情報セキュリティ基本方針の見直し

情報セキュリティ監査および自己点検の結果，本基本方針の見直しが必要となった場合および情報セキュリティに関する状況の変化に対応するため新たに対策が必要になった場合には，保有する情報および利用する情報システムに係る脅威の発生の可能性および発生時の損失等を分析し，リスクを検討したうえで，本基本方針を見直す。

令和8年4月1日

函館湾流域下水道事務組合管理者

函館湾流域下水道事務組合議会

函館湾流域下水道事務組合公平委員会

函館湾流域下水道事務組合監査委員